

平成28年度 事業報告書

養護老人ホーム 大慈吉祥園

1. <平成28年度法人ヴィジョン>

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. <基本方針>

法人の基本方針である「和顔愛語」「上敬下愛」に基づき、ゲストが施設の中で人間として尊厳を保ち、健やかで快適かつ生きがいのある生活が営めるように努める。措置施設として社会的役割を果たせるように努める。

3. <長期目標>

- ①ゲストに安心・安全・清潔・安らぎのある環境を提供する。
- ②職員は法令を遵守し、人としての尊厳を守り、敬愛の念をもって行動する。

4. <中期目標>

職員が安心して前向きに働くことのできる環境と、一人一人が主体性をもって仕事に取り組める職員集団を目指す。

昨年度は、自分で考え発言する、意見を出し合い決定する、決定したことは守るという基本的なことをやってきたが、今年度は、各々の職員が責任感をもって各自の仕事、各係の仕事に打ち込んでいる姿が見られた。時々、修正をかける部分はあったが、直すべきところは話し合い、改善していった。個々の職員により、力量に差はみられるのは歪めないが言い合える環境、フォローし合えるような環境を継続し、全員が協働できる組織にしていきたいと考える。

5. <施設年度目標>

- ①遠藤メソッドを推進（3か年計画の内の1か年目）していく

1) 仕組みを作る

- A) 遠藤メソッド研修
- B) インデックスリスト及び介護技術標準作成指導
- C) 介護技術標準現場導入

全正職員に研修を行い、インデックスリスト及び介護技術標準書作成において、全正職員ができるまでという目標は達成できた。パトロールも2回実施し、改善項目リストも作成するなど、既に来年度の目標に入っている。パトロール実施により、する側・される側いずれにしろ自部署では気が付かなかったところも見えてきた。パトロールされることで、技術標準作成に携わっていないパート職員にも意識が芽生えてきている。来年度は、パトロールや技術・標準書の作成を重ねることで、単独でも作成できるようにすること、職員の理解や意識を高めること、また、作成された技術標準書に沿って業務がしっかり行われるように指導していきたい。来年度は、新人職員3人が入職することもあり、会議を通して研修を実施し導入に向けて取り組みたい。

②情報管理において、組織的に管理できるレベルに持っていく

1) 情報の共有ができる仕組み作り

A) 定期的に共有に関する教育・研修を実施する（記録の意義、共有の意義等）

毎朝、「共有の5か条」を復唱、2ヶ月に1回「共有に関するプチ目標」を始めた。共有の意識化ができたことで、「共有事項に関する自己チェックシート」のテスト正解率も70%～100%になってきた。不正解には修正をかけ、確実に共有できるようにした。「3日間の申し送り」に関しても改善を重ね、ほぼスムーズに行えるようになってきた。来年度は、新人職員3名が入職することもあり、この仕組みを確実に全職員が共有できるように継続していきたい。

2) 報・連・相が確実にできる（迅速・細心・正確）

A) 部下への報連相の確認と働きかけ（意思疎通不足、伝達ミスをなくする）

報連相に関しては、話しやすい環境を意識しフィードバックを重ねたことで、些細なことも報告・連絡・相談できるような環境になってきた。職員により理解度の差があったり、思いが伝わらなかつたりするケースも見られたが、その都度、共有の必要性を説明し指導してきた。現在では、職員の意識も高まり積極的に発信できるようになっている。

3) 一人一人が同じレベルの記録ができる（5W1Hに沿った記録を残す）

A) リスクマネジメントを意識した記録を残す

B) 他者に伝える記録を残す

- ・記録内容のチェックと記録方法の見直し
- ・観察ポイントを明確にし、記録の統一を図る
- ・ケアに繋がる生活の記録（ゲストの心身の状態、生活が見える化）を残す

「一人一人が同じレベルの記録ができる」について、ゲスト・ご家族からの申し出事項・ケース記録・事故報告など、正確に記録することの大切さを職員に言い続けることで意識が高まり、しっかり記録ができるようになってきた。職員により、個人差はあったが研修を実施したり、記録統一のためのルールを決めたりと、この一年間、記録物の修正をかけてきた。個々が意識することで誤字・脱字が減り、文章力のアップと共に必要な情報を正確にまとめて記載できるようになってきた。日々の情報から、記録物や報告書など発信する機会が多い職員と少ない職員では、まだまだ文章力などに差が見られるため、来年度も継続していく。ケアに繋がる生活の記録についても、日々のゲストの観察やご家族への報告を含め、ほぼ記録ができるようになりゲストの処遇に活かせるようになった。記録は、リスクマネジメントとも深く関わりがあるため、誰が見ても分かり易い記録が残せるように、来年度も1年かけてしっかり取り組んでいきたい。

★大慈吉祥園利用者数（定員70名）（女性47名、男性23名） H29年3月31日現在

年 性	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～ 104	合計
	女	2	3	7	10	10	16	3	
男	1	1	5	3	4	2	1	0	17名
合計	3	4	12	13	14	18	4	2	70名
最高年齢	男 99歳 女 102歳8ヶ月		最年少	男 68歳 3ヶ月 女 68歳 10ヶ月			平均年齢 85歳6か月		

6. 《栄養科》

<目標>

①調理の味と質の安定を図る（3カ年）

- A) 全厨房スタッフに分かる献立マニュアルを作成するためのシステムを構築する
- B) 写真を取り込んだ切り方・作り方マニュアルの作成

②楽しみ、変化、選択を融合させた食事行事により、ゲストに気持ちの『高揚』と『充足』を与える（ゲストもスタッフもウキウキ、ドキドキ、ワクワクが合言葉）

- A) 食事年間行事計画の張り出しと要望の抽出

→まとめ

献立マニュアル作成という目標は達成できていないが、献立は少しずつではあるが改善できた。栄養士全員で検食するようになり、献立について話し合う時間が増えた。調理の味と質の安定を図るまでにはいかなかったが、献立の味や盛り付けなどが統一できるようになった。今年度より、テーマを決めてバイキングを考えるようにしたことが、献立内容のマンネリ化をなくしたと考える。食事行事の際には、ポスターを使って宣伝するなど、食事を楽しみにしていただける工夫ができた。来年度は、バイキングをより充実させられるように考えていきたい。

<行事食>

- ①毎月行事：誕生日食、行事食（赤飯）、お好み焼き、バイキング、スナック狸、料理作り
- ②年間行事

月日	年間行事	内容（主となるメニューを記載）
4月	花見	山菜ご飯、天ぷら（エビ、南京、大葉）、鱈の西京焼き、酢の物、竹の子の土佐煮、味噌汁、いちごを松花堂弁当箱に入れて提供した。
5月	彩りバイキング	煮込みハンバーグ、カレーピラフ、コーンポタージュ、たらこスパゲッティ、彩りサラダ、フルーツポンチを提供した。
	子どもの日	えび天、焼きたらこ、シーチキン、かに玉、ケチャップをのせたおにぎりを寿司のようにして提供した。
	母の日	ちゃんこ鍋（豚肉、エビ、焼き豆腐、鮭、うす揚げ、白菜、椎茸、水菜、うどん）を個人鍋で提供した。
6月	焼肉バイキング	牛肉、豚肉、鶏肉を焼肉風にして提供し、タレは焼肉のタレ、塩タレ、おろしポン酢の3種類を選んでいただいた。
	父の日	フロアでたこ焼きを焼いて提供した。
7月	世界の味バイキング	インド風ドライカレー、韓国風サラダ、餃子、杏仁豆腐とアジアの料理をメインとしたメニューを提供した。
	七夕	ぶっかけそうめん、おにぎり2種、天ぷら、スイカを提供した。素麺とし具材も彩り良く盛り付けた
	丑の日バイキング	ばら寿司、赤だし汁、牛肉とごぼうのしぐれ煮、おからのいり煮、スイカを提供した。バラ寿司は大きな桶で職員が作る工程をゲストに披露した。
8月	いい肉の日	いい肉は、個人鍋のすき焼きを提供した。
	夏祭り	カレーライス、焼きそば、チキンナゲットを提供した。年に一度のイベントのため、ゲストにたくさん食べていただけるように量を多めにした。
	かき氷	イチゴ・メロン・レモンの3色のシロップをかけ、ポッキー、ウエハース、アイスをのせて提供した。

	納涼バイキング	ご飯、バンバンジー、漬物6種類、トマトサラダ、そうめん（椀子）、いちごゼリーを提供した。バイキング形式で漬物を選んでいただいた。
9月	敬老の日	海鮮丼を購入し、厨房からは赤出し汁、茶わん蒸し、黒豆、フルーツポンチを提供した。
9月	秋の味覚バイキング	さつま芋ご飯、天ぷら（白身魚、南瓜）、かき揚げ、茶わん蒸し、果物（柿）を提供した。
10月	運動会バイキング	おにぎりやサンドイッチ、エビフライ、から揚げなど、ゲストに人気メニューを詰め込んだお弁当を提供した。
	間食かぼちゃプリン	かぼちゃペーストを使ったかぼちゃのプリンを提供した。口当たりがなめらかで、ミキサー食のゲストも食べていただけた。
11月	焼き芋大会	園庭での焼き芋大会を実施した。外に出られるゲストは、炭で焼いた焼き芋を提供した。
	吉祥祭	昼食は屋台風にして、焼きビーフン、から揚げ、焼き餃子、チヂミ、綿菓子を提供した。
	刺身の日	刺身の日として、マグロ、サーモン、甘エビの3種盛を提供した。
	あったかバイキング	松茸ご飯、豆乳鍋（豚肉、エビ、豆腐、うす揚げ、白菜、シメジ、人参）、ほうれん草のお浸し、みかんを提供した。
	間食おしるこ	かぼちゃを練り込んだ白玉入りのおしるこを提供した。
12月	クリスマス会	ローストチキン、エビピラフ、グラタン、白身魚フライ、サラダ、コーンポタージュを提供した。嗜好に合わせた提供ができた。
	スイーツバイキング	ホットケーキのソースは3種類から、プチカップスイーツは5種類から好きな物を選んでいただけたようにした。
1月	おせち	鶏もも、カレイの七味焼き、若鶏三食巻、エビの煮物、寿かまぼこ、だて巻き、白菜のすき煮、酢の物、さつまいも茶巾絞り、かずのこ、炊き合わせ、黒豆の入ったおせち料理とお雑煮を提供した。
	新年会	豚肉、ツミレ団子、エビ、焼き豆腐、椎茸、白菜
	おでんバイキング	はんぺん、牛スジ、大根、卵、がんも、ロールキャベツ、ジャガイモ、結びコンニャクの8種類の具材で提供した。
2月	節分（手巻き寿司）	ゲストに作っていただく手巻き寿司を実施した。巻き簾を一人一枚使い、ご自身で作っていただいた。
	てんぷらバイキング	フロアで揚げる天ぷらバイキングを実施した。あじフライ、エビ、ちくわ、しいたけ、なすび、さつま芋、ブロッコリー、かき揚げの8種類を提供した。
3月	ひな祭り	ちらし寿司、清汁、ロールキャベツ、菜の花のお浸し、いちごを提供した。
	カレーバイキング	ビーフ・チキン・ホタテカレー、ブロッコリーサラダ、コンソメスープ、ヨーグルトを提供した。
	いい肉の日	おいしい肉の日として、すき焼き（個人鍋）を提供した。

7. 《看護部》

<目標>

『尊厳ある生活を最期まで園で支援できる看取り体制づくり』

①不安定期に伴い、対応可能な医療の提供とご家族も交えたカンファレンスを行う。

申し送り時、特変者を把握し観察強化することで調整連携することができた。ご家族を交えたカンファレンスを行うケースもあったが、対応事態はまだ不十分である。状態変化時、医師の指示を受けながら早期対応することができ、ご家族への報告も随時行えた。

②看取りにおけるご家族の不安を軽減できるケアを多職種協働で実践する。

不安定期の状態報告はできているが、看取り導入期に伴い、終末期をどう過ごしたいかの情報収集が少なかった。看取り対象者のご家族が面会された時には、担当看護師より状態報告はできており、ご家族の不安軽減につながった。看取り終了後は、部署内で情報共有できており、看取り褥瘡委員会でも報告することで共有できていた。

<年間業務>

4～6月	春の健診、外部健診、職採時検診	レントゲンは、2日間で150名のゲストをトラブルなく撮影することができた。外部はにこにこ保育園48名、職員189名実施した。職採時検診（大慈園16名、にこにこ保育園11名、）問題なく実施し、坪内Drより注意事項に関する指導を受けた。
7～9月	職採時検診、腰部レントゲン	職採時検診13名問題なく実施できた。8/13腰部レントゲン10名実施。症状に応じ、Drより指導を受けた。
10～12月	秋の健診、外部健診、職採時検診	介護職員に問診票を配布し、腰痛の自覚症状者58名の腰部レントゲン実施、ゲスト155名も実施する。インフルエンザ予防接種に関し、にこにこ保育園50名、つぐみ保育園32名実施した。その内、秋の健診は57名実施。ハーバー大慈の母親健診6名、職員128名、ゲスト127名実施した。職採時検診6名実施。
	採血	ゲスト156名の採血を実施した。
1～3月	職採時検診	職採時検診5名、ハーバー大慈母親健診1名実施

<週間診療表> 大慈弥勒園に記載。

8. <理学療法科>

<年間計画内容>

ゲスト一人一人の能力を見極め、自立への手助けを目的としたサポートをしていく。生活リハビリの充実を図ることで、廃用性によるレベル低下を防ぎ、同時に緩和治療への呼び掛けにより、慢性的な腰痛・肩凝り等の軽減を図る。

<実践目標>

①日常生活リハビリの充実

- A) 現場職員へのアドバイス・個別指導
- B) 実施方法・回数等の提言

②緩和治療の充実

- A) 緩和治療への呼び掛け（対象者の選出）…定期的
- B) 慢性疾患（腰痛・肩凝り・神経痛等）へのアプローチ…随時

→まとめ

日常生活リハビリへのアドバイスなどは、現場職員から打診があれば随時、指示・指導を行ってきた。また、事故再発防止委員会にて、生活対応などの見直しをする上で、生活内に取り込む日常生活内リハビリの指導をすることもできた。緩和治療の充実に関しては、対象

人数を増やすことはできていない。隠れ腰痛症・神経痛・肩凝り症のゲストがたくさんいると思われるため、何らかのアプローチをしていくことで、対象人数の増加を図る必要があると思われる。

9. 《委員会活動》
 10. 《衛生管理》
 11. 《相談苦情の対応》
 12. 《事務部》
- } ☆大慈弥勒園と同様

13. 《入浴》

曜日	昼入浴	夜間入浴
月・火・水・金・土・日	15:30～17:00	18:45～21:00
火・金（男性・女性）	9:30～11:45／13:00～15:00	

- ★くつろいだ雰囲気の中で楽しく入浴できるような支援を行っていく。
 ・仲の良い方との入浴、BGMを流す、壁画を楽しむ等。

入浴は、仲の良い方々でグループ分け（1グループ45分間）しており、BGMを聞きながらくつろいだ雰囲気の中でゆっくり入浴していただけた。見守り強化をしており、事故やトラブルもなかった。お湯に浸かれないゲストに関しては、デイサービスの個浴や機械浴を利用していたっており、ゆっくりお風呂に入れることで喜んでいただいている。

14. 《職員会議等》

頻度	会議名		
月1回	正副施設長会議	処遇会議	主任会議
	職員会議	各担当者会議	会計会議
随時	ケアカンファレンス	医務部会	事務部会

→会議まとめ

部署会議に関しては、職員会議、処遇会議、各係会議を月1回ずつ実施した。処遇会議、職員会議には、関連部署も参加し情報共有できていた。係会議で話し合ったことを会議で報告し、情報共有に努めた。処遇会議では、主にゲストのカンファレンスを行ったが、その他、ミニ研修や不適切ケアについて、またテーマを決め、職員それぞれの思いなど語った。来年度も継続し、チーム力を高めていきたいと考える。

15. 《クラブ活動》

行事名	頻度	人数	講師等	行事名	頻度	人数	講師等
レクリエーション	毎日（グループ毎）	5～10名	職員	テーブルカラオケ	週2回	20名	職員
シルバー体操	月8回（月・水曜日）2部分け	40名	村越先生 浦波先生	体操 嚙下体操	日3回	全ゲスト	職員
華道	月2回（隔週）	10名	段先生	ニコニコツアー	週1回	3名	職員
絵手紙	月1回	20名	シルバーカレッジ	麻雀	週3回	7名	職員
ビデオ観賞会	第1・3土曜日	20名	職員	学習療法	不定期	5名	職員

書道	月1回	10名	下村先生	大正琴	月1回	5名	職員
園芸療法	月1回	6名	外部講師				

★ゆとりのある多様な活動

行事、クラブ活動、レクリエーションを実施し、生活が単調にならないよう刺激と生活の潤いを持っていただく。また、四季を感じながらの生活が実現できるよう心がける。

①行事

- ・花見、ひな祭りや端午の節句、柚子や菖蒲湯、夏祭り、クリスマスなどの行事で季節感のある行事を提供する。(行事食と職員の出し物をトータルで企画し、一日楽しめる企画を立てる。) また、プチ旅行などの外出の機会を年3回以上設ける。

②クラブ活動

- ・ゲストが主体的に参加し、他ゲストとのふれあいや、生活に張り合いが持てるような活動の場にする。

③レクリエーション

- ・写真展、壁画、昭和史等を見ながらの散歩等の運動量をアップさせる。
- ・季節毎の大壁画を作成。
- ・レク係が中心となって実施。記録と評価を取り、内容を充実させ継続させる。
- ・認知症の悪化防止、改善・維持のため、園芸・学習療法を積極的に取り入れた援助方法を活用し、効果的な介護予防に努める。
- ・認知症の支援に当たっては、その症状の背景や思いを知り、寄り添った支援を目指す。

→クラブ活動等まとめ

行事に関して、予定通り計画・実行することができた。美味しい行事食や職員の出し物は、ゲストにとって大きな楽しみの一つになっている。「ありがとう、楽しかった」の一言が職員のやりがいに繋がっている。また、クラブ活動、レクリエーションも予定通り実施できた。

クラブ活動に関して、それぞれ好きなクラブに入られているが、認知症のあるゲスト、不穏のあるゲストにはその都度声掛けを行った。学習療法や園芸療法など、普段から不穏のあるゲストも、いったん入ってしまうと一生懸命取り組まれ笑顔も見られている。学習療法に関して、殆どの職員が支援に当たれるようになったこともあり、学習療法回数を大幅に増やすことができた。来年度は、職員の配置を予定通り配置することができるため、レクリエーションなどを活発に実施させていきたい。

16. 《年間行事》

月	年間行事名	月	年間行事名
4月	お花見(園内)、ボーイスカウト慰問、餅つき	11月	プチ旅行(美味しいもん食べよう旅行)
5月	母の日お祝い会	12月	にこにこ保育園交流会招待 吉祥祭
6月	ろうごの日、外食ツアー(回転寿司) 父の日お祝い会	12月	つぐみ保育園慰問、クリスマス会、イルミネーション巡り
7月	七夕	1月	正月遊び、書初め、初詣(諏訪神社) 新年会
8月	神戸花火大会、夏祭り(地藏盆) 夏祭り(吉祥園)、盆供養	2月	節分、バレンタインデー(おやつ)
9月	大慈園秋祭り、つぐみ保育園慰問 敬老の日お祝い会(喜寿・米寿)、秋の彼岸法要、にこにこ保育園お月見会	3月	雛祭り、ホワイトデー(おやつ) 春の彼岸法要

→年間行事まとめ

4/1	餅つき大会	設立記念日に餅つき大会を開催した。今年は、ぜんざいを提供したが、ゲストに配るのに手間取った。他部署の職員は、きざみ餅をどのゲストに渡してよいか分からなかったためであるが、来年度は事前に担当職員が把握し、配るようにしていきたい。
4/3	ボーイスカウト慰問	歌と折り紙の出し物。折り紙では、ゲストと一緒に作成。子供達から指導を受けながら、たくさんの笑顔が見られた。
4/6	花見	午前中は、西区の桜の名所を車で回ったが、たいへん好評であった。昼食は、豪華な弁当を提供したが、色とりどりの華やかな弁当を楽しんでいただいた。午後より、園庭で満開の桜の下、ゲスト2名と職員によるお茶会を開催した。三色団子も「おいしい」と好評であった。
5/7	母の日お祝い会	昼食は、ちゃんこ鍋を提供した。出し物では、慰問のハーブ演奏を披露していただいた。数曲ゲストと一緒に歌うこともできた。カーネーションとシュークリームを提供した。
6/1	ろうごの日	4名のゲストが参加された。並ぶ時間を考慮し、本年度は文化ホール内の紫陽花にて昼食をとった。スムーズに入場し、良い席を確保できた。シャンソンとアグネスチャンの講演を聞いたが、たくさんの笑いありで大いに楽しんでいただけた。
6/2	寿司ツアー(6回)	大蔵谷のくら寿司を利用した。ゲストにとっては楽しみのある行事であり、基本全員参加とした。10皿以上召し上がったゲストも多く、皆さん満足されていた。参加できないゲストには、出前の豪華な寿司を提供した。寿司ツアーは6グループ、園内寿司は2グループに分け、それぞれ仲の良い方同士で組んだことで楽しい食事を提供できた。
6/19	父の日お祝い会	たこ焼きを祭り風に舟の皿で提供した。久しぶりのたこ焼きであったため、喜んでいただけた。慰問には安井太鼓を披露した。
7/7	七夕	献立は良かったが、麺つゆ、天ぷらつゆ・ビールなど個々に注ぐ物が多く、準備や配膳に時間がかかった。午後からは、職員による出し物「七夕」の劇を披露した。ゲストには、大変喜んでいただき拍手喝采であった。
8/7	夏祭り	昼食は、屋台形式で焼きそば、チキンナゲット、アイスカップ、カレーライス、飲み物、駄菓子を提供した。BGMで盆踊りの曲を流し、祭りの雰囲気味わっていただいた。午後からは、漫才、フラダンスの慰問を受け、大いに盛り上がった。
8/9	花火大会	二階ホールからの見学者は20名ほどの参加があったが、ホールからでは打ち上げ花火が見えにくいこともあり、アイスクリームを召し上がった後は部屋に戻られる方が多かった。園庭では線香花火で子どもに返ったように楽しんでいただけた。
8/23	子ども参観	職員の子どもの参観で多くのゲストが参加される。子供達と一緒にうちわ作りを実施した。赤い手形・なぞなぞ・歌と一緒に歌うなど楽しいひと時を過ごされた。おやつは、せんべい・クッキーを提供した。
8/25	赤ちゃん先生	今回で2回目になる。1F5名、2F53名のゲストが参加された。親子6組(7ヶ月～5歳児)が来園。赤ちゃんと一緒に歌うなど、赤ちゃんと触れ合い楽しい時間を過ごされた。

9/2	にこにこ保育園お月見会	今年の出し物は、職員の踊りと演奏であった。園児たちと一緒に観て笑顔で拍手をされていた。食事中も園児たちと一緒に過ごし、話をしながら楽しい食事ができた。
9/18	敬老会	昼食は、写真付きカードを食事席に並べた。好評の海鮮丼を提供し、喜んでいただけた。午後からは、ハーブ演奏とマジックの慰問を受けた。月をテーマにした歌をゲストと一緒に歌った。おやつは、紅白饅頭を提供した。長寿のお祝いには、女性には生花、男性には衣服をプレゼントし、たいへん喜んでいただけた。
9/25	秋祭り	ゲスト60名とご家族18名が参加された。マジックショーに参加し、手拍子や歌声ありで大いに楽しんでいただいた。
10/3 10/12	プチ旅行 どうぶつ王国	ポートピアホテルの食事の豪華さにびっくりされていた。ホテルから駐車場までの距離があり、疲れた様子が見られた。どうぶつ王国では、雨で幼稚園の遠足が変更となったため、たいへん混雑していた。動物を見たい方、見たくない方とあり別れたが、全員でバードショーを見学した。鳥が猛スピードで移動するのに驚いたり、動物と触れ合ったりと楽しい時間を過ごされた。
10/5 11/14 12/7	プチ旅行 吉本新喜劇	早めに出発したが、トイレなどで時間がかかり、開園後の入場となってしまった。ゲストは道中車外の景色に感激し、劇場では漫才・新喜劇に大笑いしながら鑑賞されていた。
10/20	プチ旅行 淡路夢舞台	杖歩きのゲストがおられたが、距離が長いこともあり、様子を見ながら車椅子に替えた。天気も良く、食事もおいしく、植物もきれい大変喜ばれていた。
10/24	プチ旅行 フルーツフラワーパーク	モンキーズ劇場でサルのお芸に拍手喝采であった。その後、記念撮影をした。昼食はバーベキューを提供した。園内散策や池の鯉に餌をやるなど、楽しい一日を過ごしていただいた。
10/27	にこにこ保育園音楽祭	音楽祭に3名のゲストが参加された。一緒に手遊びするなど、園児と触れ合うことが多く始終笑顔が見られた。昼食も園児と一緒にいただき、その後、園児からけん玉やあやとりの披露があった。
10/31	プチ旅行 須磨水族園	ペンギンの餌の時間を見ることができ、興味深く見られていた。食事もおいしいと喜ばれる。
11/2 11/7 11/9	プチ旅行 ケアハウス食事会	プチ旅行に参加されなかったゲストに対して、ケアハウス「チェリッシュ」の昼食会を実施した。行くのを嫌がっておられたゲストも「おいしい」と喜ばれていた。
11/11	口腔ケア講習会	平山歯科衛生士による講習会を実施した。ゲスト31名が参加され、歯ブラシの選び方、使い方、義歯やブリッジの洗浄方法、嚥下体操の指導を受けた。嚥下体操では体を動かし楽しまれていた。
11/20	吉祥祭	初めての企画で「学生気分を味わっていただく」と3部制で文化祭を実施した。全ゲスト、ご家族が参加される。1部：ゲストと職員による作品の展示会を実施した。展示コーナーが混雑し、車椅子のゲストが他ゲストのシルバーカーを押したため、転倒するという事故があり課題が残った。展示品に関しては、素晴らしい出来映えであった。2部：昼食は、屋台形式で食券を配布し提供した。3部：和太鼓、ゲストを交えてのマツケンサンバ、ピンクレディーの踊り、ピアノ演奏による合唱、沖縄太鼓と披露した。展示品の優秀賞も設け賞品を出せた。
12/15	つぐみ保育園慰問	園児の歌声に感動されていた。手作りのクリスマスツリー飾り付けを園児と一緒にやった。園児からの手作り絵柄ボックスティッ

		シュのプレゼントに感動され、園児にもプレゼントを進呈した。
12/12	クリスマス会	ゲスト67名が参加される。全職員からメッセージをムービーで流した。午後からはジングルベルのダンスを披露。その後、一年間の思い出をピアノ演奏と共に見ていただいた。ご自身が映っている映像を見ながら、この一年を振り返られていた。最後に井吹台中学吹奏楽部の演奏に鈴やタンバリンで合奏に参加したり、歌詞を見ながら歌っていただいた。
1/1	新年のお祝い	職員は、正装しゲストへの新年の挨拶を個別に行った。昼食は、おせち料理とお屠蘇で新年のお祝いをした。
1/2	初詣	希望のあった18名のゲストを諏訪神社の初詣にお連れした。思い思いに祈願しお守りを購入されていた。
2/2	節分	昼食は、巻き寿司を各自で巻いていただいた。久しぶりで慣れない手つきではあったが、自分で巻いた物を食べるのは格別の様子で、楽しそうに巻かれていた。
3/3	雛祭り	昼食はちらし寿司。豪華で「こんなのをいつも食べたい」と好評だった。職員による大正琴を披露した。歌詞カードを付け、一緒に「うれしい雛祭り」「荒城の月」などを大きな声で歌った。

毎月の定例行事

誕生者会食（第3木曜日）、お誕生日会（第3月曜日）、スナックたぬき（第3土曜日）、お好み焼（第2・4日曜日）、健康チェック（体重・血圧測定）（中旬）、買物ツアー・にこにこツアー（毎週月曜日）、料理作り（各1回/月）、バイキング（1回/月）、理髪（第2月曜日）、学習療法（3回/週）、園芸療法（1回/月）、月命日（1回/月）

→定例行事・年間行事等まとめ

今年、誕生者食事は、オリエンタルホテルの豪華なステーキランチを提供した。眺めも良く、ゆったりとした気持ちで会話を楽しんでおられた。にこにこツアーでは、出来る限り時間をとり、普段外出しにくいゲストに参加していただいた。買物、図書館、コーヒーを飲みに行くなど、ゲストの希望に合わせて実施できた。バイキングでは、管理栄養士・職員が相談し合い、「楽しく・美味しく」を目標にいろいろ計画したが、今ではゲストの楽しみの一つになっている。その他、予定していた毎月の定例行事は、滞りなく実施することができた。

年間行事に関してもしっか行えた。特に料理、職員の出し物など、ゲストに喜んでいただきたいという思いで、趣向を凝らし練習に励んだ。結果、ゲストの笑顔が見られ、「ありがとう、楽しかった」という感謝の言葉を多くいただけた。次年度も喜んでいただけるよう、職員一丸となってやっていきたい。

17. 《リスクマネジメント報告》

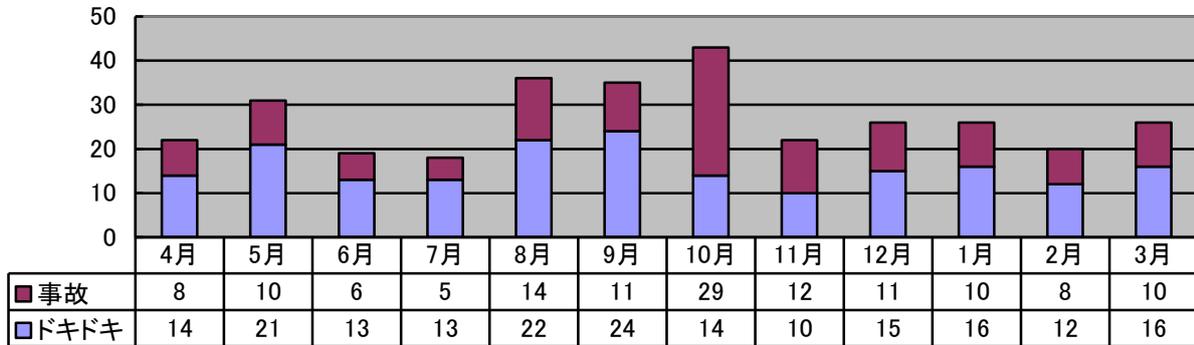
☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

○平成28年度報告件数

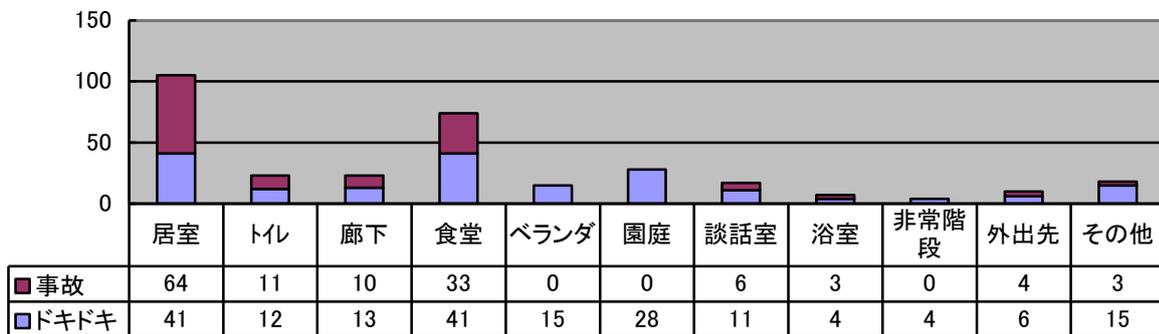
事故件数だけを見ると、前年度の144件から134件となった。しかし、誤薬事故（10件）の発生や、同一ゲストによる事故が複数回発生、職員の不注意・ミスというこれまでの課題も残ったままになっている。KYT法の更なる推進により、職員の危険感受性を高め、また、遠藤メソッドを活用し、全職員が同じレベルで業務に入れる環境を築いていきたい。

平成28年度				平成27年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	324件	134件	190件		1124件	144件	976件



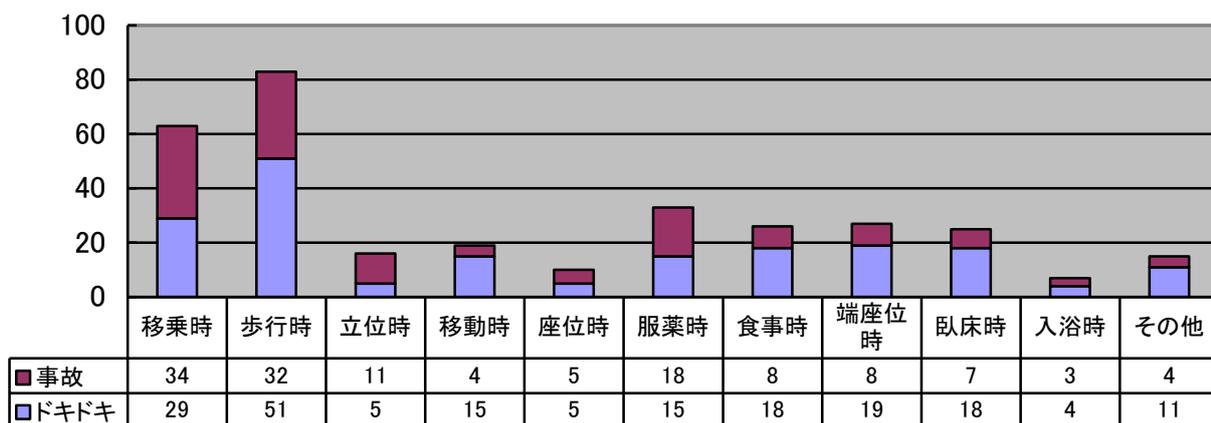
②発生場所別件数

昨年と比較し、居室での事故が53%から47%に減少したのに対し、食堂での事故が16%から24%に増加している。見守りを要するゲストの増加に対応しきれていないことや環境面での整備不足、服薬時の事故発生などが要因に挙げられる。また、自立者以外でフロア外に出て行かれるゲストも増え、園庭や他フロアで発生されるドキドキも多く発生した。業務内容やタイムテーブルの見直しを図り、見守り・職員間の連携を強化する必要がある。



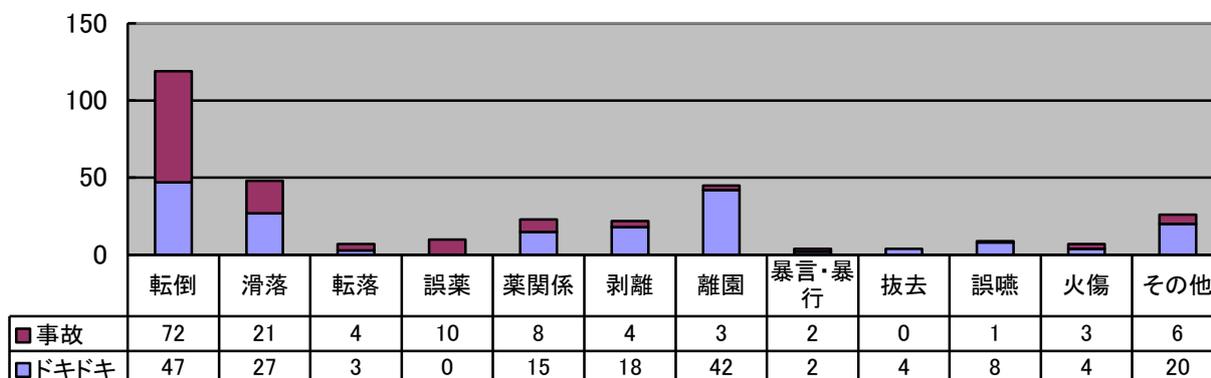
③発生状況別件数

状況別では移乗時、歩行時で併せて半数を占めており、移乗時は車椅子使用ゲストのブレーキの掛け忘れ、センサーマットの設定ミスによる事故、また、歩行時は見守り不足や環境面での危険要因に職員が気づいていなかったことが原因に挙げられる。今後、啓発ポスターを定期的に更新し啓発を促すとともに、KYT法を今まで以上に推進し、“気づくことができる職員”を増やし、事故の発生・再発を防ぐよう努めたい。



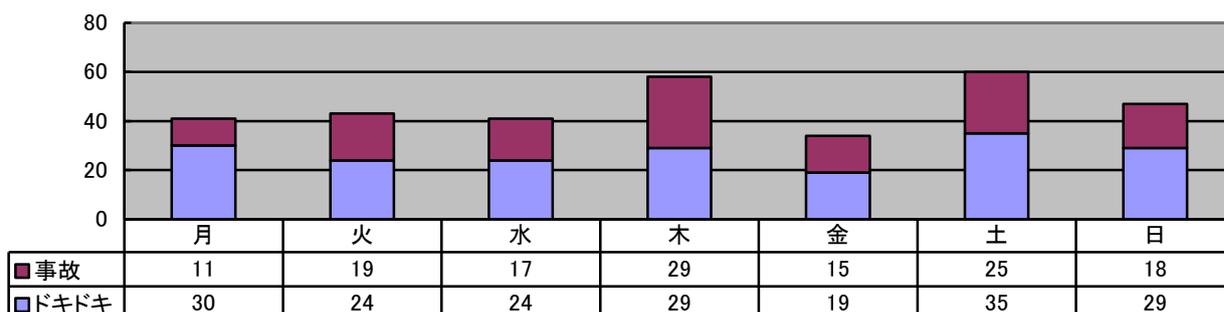
④発生内容別件数

事故内容は、転倒が圧倒的に多く半数以上を占めている。原因として、センサーマットの確認ができていなかった、様子観察者の見守りができていなかったなど、職員に起因するものが多かった。また、これまで転倒されることがなかったゲストの事故も見られた。薬に関する事故について、昨年の21件から件数は減少したものの、同時に10件の誤薬事故が発生してしまった。今年度最大の反省点でもある。配薬方法、保管方法を見直しなど、改善したことにより現在は同様の事故は発生していない。引き続き、全職員が責任感と緊張感をもって業務に入ることができるよう、対策・啓発を続けていく。



⑤曜日別件数まとめ

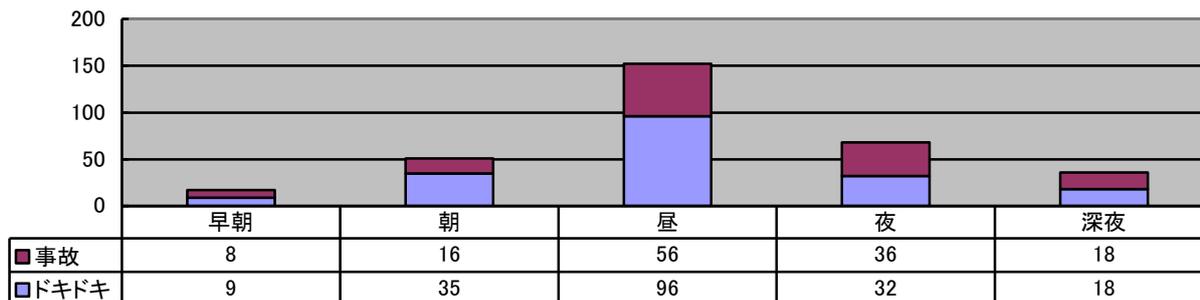
前年と比較し、曜日毎の事故発生数に大きな差は見られなくなった。どの職員が出勤しても、また、その日の職員数に関わらず全ての職員が同じ質のケアを提供し、業務への取り組みを統一できるよう、情報伝達の改善・遠藤メソッドの推進に努めたい



⑥時間帯別件数まとめ

早朝4:00～6:59	朝7:00～11:59
昼12:00～16:59	
夜17:00～22:59	深夜23:00～3:59

11時～17時の事故が41%（昨年35%）を占めており、17時～22時と合わせると56%になる。時間パート・派遣職員が増加し、決まり事やゲストの対応の変更について「知らなかった」「わからない」などの声もあり、対応が一部統一されていなかったことが原因の一つとして上げられる。



⑦リスクまとめ

事故件数は減少した。その中で職員が原因となり発生した事故、防ぐことができた事故も多くあった。また、課題として挙げていた薬関係の事故についても件数は減少したものの、一度にたくさんの誤薬事故が発生してしまった。来年度は、これまで以上に緊張感と責任感をもち、職員全員が業務に着くことができるような環境を作っていく。一方で職員の大幅な入れ替わりから1年が経過し、人員、業務内容の見直しなどが安定しつつある。改善すべき箇所は改善し、今後、今まで以上に安全・安心な生活をゲストに提供できるよう努力したい。また来年度は、KYT法と遠藤メソッドを軸に“気づく力”“ケアの統一”を目標に取り組んでいきたい。

18. 《苦情・相談結果報告》

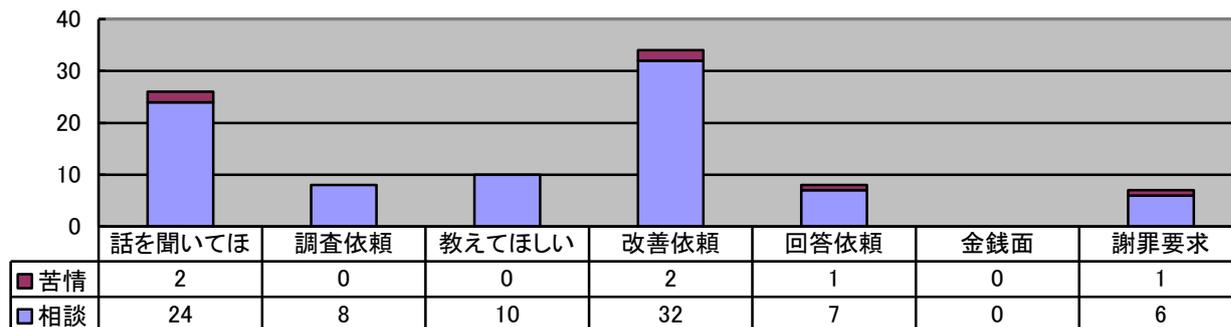
苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

報告件数	平成28年度			平成27年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	64件	4件	60件		45件	2件	43件



○主な内容



昨年対比、相談件数は20件減少した。情報共有に力を入れたことや対応の仕方の改善などにより、職員への苦情・相談が減ったことは良い結果と言える。決まり事を知らない、守れないことによる相談、事務員の対応や説明不足によるもの、昨年度とは違った特定のゲスト間(特に相性の悪い)のトラブルが多く、物忘れや勘違いによる内容も昨年同様多かった。

→苦情・相談まとめ

要望に関しては、昨年に比べ「謝罪要求」は減少しているが、昨年同様「話を聞いて欲しい」が多くを占めている。内容として「ゲスト間のトラブル」が21件あり、「物忘れ・妄想・思い違い」によるものが多く、対応に困ることもあった。席替え・居室替えでの対応、居室内を一緒に探す、話を傾聴するということを繰り返した。また、コミュニケーションを増やすことで安心感を持ってもらえるように努めた。事務員の対応では、今年度苦情・相談が10件あった。

ゲスト・家族様への信頼関係を築くには、しっかりと説明し理解していただくこと、接遇面においても相手の立場を考慮し物事を進めていく必要がある。来年度は、新人職員が増えることもあり、コミュニケーションの取り方・接遇面の教育など全職員がスキルアップを目指したい。また、決まりごとに関しては、遠藤メソッドを推進し守れるような環境・体制を構築していきたい。

19. 《養護職員構成》

平成29年3月31日現在

施設長	生活相談員	主任支援員	支援員	看護師	栄養士	事務員
1名	2名	1名	1名	1名	1名	1名

20. 《総括》

年度目標である遠藤メソッド推進に関しては、予定通りの達成は見られた。来年度は、全職員が介護標準基準書を作成出来るだけでなく、繰り返し作成することにより指導に当たれる職員を増やしていきたい。情報管理に関しては、情報共有、報連相、記録の仕方などに力を入れ、職員全員が同じレベルで効率よく業務ができるように、細かい部分までチェックし改善してきた。結果、一定の成果は見られた。記録に関しては、ゲスト・ご家族への申し出や報告事項、様子観察などしっかり記録し、職員で共有、ゲストの処遇面にも活かせるようになってきた。

部署内の職員が働く環境に関しては、昨年度、職員の配置人数が少ないこともあって、業務削減や改善を行ってきた。比較的、経験や技術の少ない職員が多い部署であったが、現在では、新人職員も大きな戦力になっている。全職員で考え、全職員で決め、全員で守るという基本的な方針が当たり前になってきたことが、職員の主体性の向上に繋がった。ゲストへの関わりについても「不適切ケアをなくそう」という全員の取り組みを継続しているが、2ヶ月に1回実施している職員のアンケートから、皆で話し合い、振り返り、翌月の個々の目標にするなど継

続してやっている。不適切ケアをなくそうとする意識付けができたことにより、ゲストへの対応や職員間の関わり方にも変化が表れている。また、業務においても、自然に助け合うことができ、ストレスの少ない、風通しの良い状態となってきた。来年度より、新人職員3名の入職が決まり、安定した職員の配置と、500時間減らしていたサービス提供時間数を元に戻すことができるようになった。新人育成とチーム内の働きやすい環境、更なるゲストへのサービスの質を高められるよう、緊張感を持ち全職員が協働できるような体制を整えていきたい。